

スーパーグローバル大学創成支援 タイプ A

GLOBAL UNIVERSITY

「世界適塾」



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

申請者：総長 平野俊夫

構想責任者：理事 東島清

共通評価項目 1



適塾から、世界適塾へ。

大阪大学の理念

大阪大学は、「物事の本質を見極める」高いレベルの学問を追求し、グローバル社会で活躍できる人材を輩出する「学問の府」となるとともに、学問による「調和ある多様性」を創造する。



緒方洪庵(1810-1863)

1838 適塾

日本全国から、藩や身分の違いを越えて志の高い若者が学問を求めて集まり、互いに切磋琢磨

緒方洪庵の人のため、世のため、道のためという無私の方針と倫理観に導かれ、徹底した国際教育を基にしつつ、真理と知の探求、社会的課題の解決に取り組む

その後、彼らの多くは明治維新において、まったく新しい近代日本をデザインし、作り上げたリーダーとして、歴史を変える大きな貢献

世界適塾

日本から世界に目を向け、地球規模の課題解決のために

世界中から

高いレベルの教育研究に励む

学生・教員・研究者が集い学ぶ場

=プラットフォームの構築



構想期間中(2024年)に、世界トップ30の研究型総合大学となる。
2031年の創立100周年において、世界トップ10の研究型総合大学になる。

適塾の精神

大阪大学の現在の強み

大阪大学未来戦略

22世紀に輝く

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| 1 世界トップクラスの競争力を持つ
基礎研究の実績：免疫学 | 1 未来戦略機構の創設 |
| 2 未来戦略機構：異分野統合研究：認知脳システム | 2 本質を究め未来を創造する研究 |
| 3 学際融合型・異分野横断の大学院教育
副専攻・副プログラム | 3 世界に通用する人を育む教育 |
| 4 博士課程教育リーディングプログラム-5プログラム | 4 世界が大阪大学を目指す国際戦略 |
| 5 外国語学部(24言語)教育と
国内随一の日本語教育環境 | 5 豊かな社会を生み出す産学連携 |
| 6 医療と先端研究の融合、先導的な産学連携 | 6 大学と人と地域が交流する社会学連携 |
| 7 大学間協定、海外拠点、国際ジョイントラボ | 7 質と倫理を兼ね備えた大学病院 |
| 8 基盤となる柔軟な人事・給与システム | 8 教育と研究の基盤を支える大学運営 |

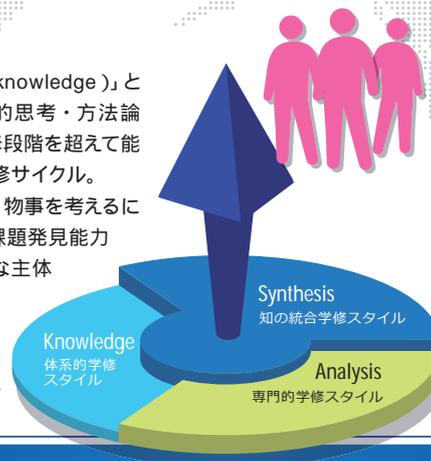
大阪大学は、適塾の精神のもと、今ある強みと大阪大学未来戦略の上に、新たな学問の場=プラットフォームを構築
グローバル社会の期待に応えるべく、従来の常識を変えるような研究、
新たな社会的価値の発見、社会を変える革新的プロダクトの創造を目指す。

世界適塾構想

- ▶ 「物事の本質を見極める」高いレベルの学問を追求し、専門性を究める。
- ▶ 専門分野を超えた能動的な「知の統合学修」を行う。
- ▶ 知識・技能・経験・立場が異なる人々の相互理解と協働による「コラボレーティブ・イノベーション」を推進。

知の統合学修

「体系的学修で獲得した知識(knowledge)」と「専門的学修で追求した論理的思考・方法論(analysis)」を、時に専攻や学修段階を超えて能動的に統合(synthesis)する学修サイクル。一定の専門性を有する人材が、物事を考えるに当たり欠かせない広い視座と課題発見能力を獲得し、異なる社会の多様な主体の人々との幅広い協働(コラボレーション)を通じて自らのアイデアを現実のものとする上で、効果的に作用する。



コラボレーティブ・イノベーションを推進する人材

世界に通用する高度な専門知識を有す
人類の遺産としての豊かな教養
問題を発見し、
解決の道筋を創るデザイン力
領域を超えるコミュニケーション力
調和ある多様性の創造に
寄与する実現力

様々な要因が複雑に絡み合っている地球規模の社会的問題を解決するとともに、最先端の科学や技術の発展を推進し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する、グローバル社会のトプリーパー、トップレベルの研究者、高度専門技術者を育成する。

世界適塾の推進体制(1) - 全学マネジメントの強化 -

世界適塾構想におけるマネジメント改革の要諦

- ① グローバル化への対応にこれまでにない緊張感とスピード感をもって臨むこと
- ② どのような点で強みを持っているのか、他にないどのような特色があるのかを適切に見極め、そのポイントに資源を重点的に投入すること
- ③ 個性あふれた教員・学生がより多く世界に羽ばたいていくよう促すこと

総長のリーダーシップによるマネジメント改革に係るこれまでの実践

- ① 部局配分ポストの10%を段階的に大学本部へ留保し、戦略的に再配分
- ② 附属病院経費や寄附金、産学官連携推進活動経費等に係る学内資源配分の見直し
- ③ 将来の建築計画の原資となる施設老朽化対策経費を各部局から徴収(昨年度は5億円を確保)
- ④ 積極的なマネジメントで優れた成果を生みつつある部局に未来戦略裁量経費を配分
- ⑤ 特別教授制度、評価連動型年俸制、クロス・アポイントメント制度を他大学に先駆けて制度化

「組織(大学全体)の力の最大化」に資する「個(教職員や部局)の力の最大化」を図るため...

学内に存在している教育研究に係る組織や人的資源がより高いパフォーマンスを発揮するための一層のマネジメント改革に取り組む。

世界適塾の推進体制(2) - 機能強化を伴う横断的組織体制の確立 -

大阪大学未来戦略機構 平成23年12月設置

学内の多様な分野の知的資源を戦略的・超領域的につなぎ、「学問の新基軸」の形成につながるインキュベーション機能を持つ組織

教育研究の将来の可能性を分析する(URA, IR)視点をもちながら、部局を超えた新たな学術領域を、大阪大学が先陣を切って形成する



世界適塾大学院 構想

グローバル・シンセシス学府(仮称) 平成29年度設置予定

未来戦略機構等を介し形成された新しい異分野統合・新学術領域の研究分野を基盤とした次世代グローバル大学院組織「世界適塾大学院」を設置

大阪大学の教育研究とマネジメントの特色を最大限発揮させ、全学的な大学院システム改革を牽引する

- 第一部門：超域イノベーション博士課程プログラム
- 第二部門：生体制御ネットワーク医学教育プログラム
- 第三部門：インタラクティブ物質科学・カデットプログラム
- 第四部門：ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム
- 第五部門：未来共生イノベーター博士課程プログラム
- 第六部門：創薬基盤科学研究部門
- 第七部門：認知脳システム学研究部門
- 第八部門：量子科学研究部門
- 第九部門：グローバルヒストリー研究部門

全学学修イノベーション機構 (仮称) 平成26年度中設置予定

教育プログラムや学修活動に係る抜本的な改革を企画立案し実行する新たな教学マネジメントの拠点

大阪大学が既に有している部局の枠を超えた教育資源(副専攻・副プログラム等)を生かし、「知の統合」に係る学修を多くの学生に効果的に提供する

グローバル・マネジメント機構 (仮称) 平成26年度中設置予定

大学全体の世界展開力を加速するため、研究交流、学生交流、海外調査・インターン、広報、産学連携等に係る既存組織の機能を整理統合

総合大学として一丸となって、教育研究の国際交流やブランディング戦略の展開等を戦略的に推進する

- 文学研究科
- 人間科学研究科
- 経済学研究科
- 法学研究科
- 言語文化研究科
- 国際公共政策研究科
- 高等司法研究科
- 生命機能研究科
- 医学系研究科
- 歯学研究科
- 薬学研究科
- 工学研究科
- 基礎工学研究科
- 理学研究科
- 情報科学研究科
- 連合小児発達研究科

大学改革、グローバル化の目標・取組(1)

世界標準への対応に係るグローバル化

- 1 クォーター制(3学期制)の導入(平成29年度～)
学生の主体的学修時間の確保、留学生受入の推進、全学横断的教育やまとまった研究時間を確保
- 2 優秀な外国人教員の増加(平成29年度当初までに倍増させ、本構想期間中に割合を15%まで引き上げる)
特別教授制度、年俸制、クロス・アポイントメント制度等の柔軟な人事・給与制度を最大限活用
- 3 留学生受入れ・海外派遣の増加(平成32年度までに倍増(受入れ:8 15%、派遣:4 8%))
大学間協定数の増加、英語による授業科目・コース(ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー含む)の増加、サマープログラムの増加、新たな私費外国人留学生特別入試の実施等により実現
- 4 グローバル・ビレッジの形成
(平成30年度当初までに学生寮を約1,100 1,400戸とし、充足状況を考慮しつつ、36年度当初までに更に600戸を整備)
教職員を含め約2,600戸規模を整備(学生寮の25%を日本人学生に提供)
PFI方式等を生かした持続可能な計画により着実に実施

グローバル化に対応するガバナンス強化

- 5 年俸制教員の増加(平成29年当初には承継教員の約2割)
- 6 大学教育のグローバル化に対応したFDの推進、国際公募の原則100%実施
- 7 事務職員の語学力向上(平成35年度までに外国語力の基準を満たす職員数を現行の3倍に増加)
- 8 URA・IRによるサポート体制、HPや学内公文書の多言語対応化

06

大学改革、グローバル化の目標・取組(2)

国際通用性を備えた教育基盤の整備と教育の質保証

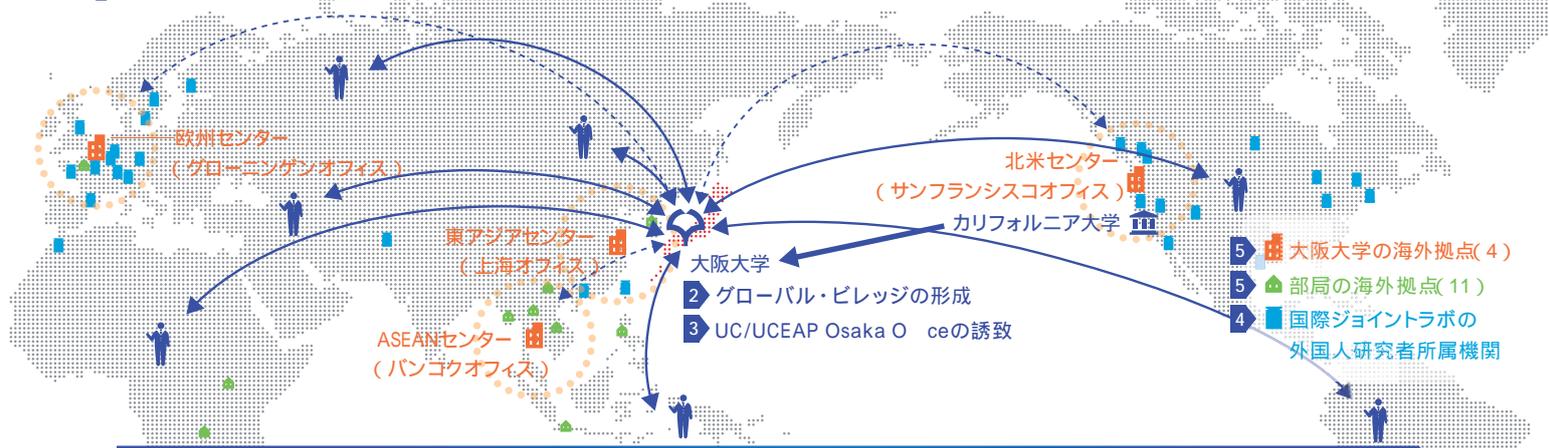
- 1 ナンバリングの全学導入(平成33年度にかけ段階的に実施)
総授業科目数の精選、学位プログラムの体系化の過程と並行して実施
- 2 GPA制度の実質化、シラバスの完全英語化
- 3 国際通用性のある教育の質保証、edX提供のMOOCsを介した国際水準の講義の導入
- 4 大学院学生向けプレFDの実施など体系的な教育力のトレーニング
- 5 Teaching Fellowの制度化を含めた新たなTA制度の開始
- 6 新たなAO入試の全学的実施、TOEFLの一層の活用(平成29年度～)
- 7 入学から卒業後までの学生の実態に関する情報や、多言語による教育情報の公表

財政基盤の強化

- 8 創立100周年に向けた寄付金100億円獲得のための卒業生対策
卒業生室を設置し活動を強化、2024年までに基金目標額:60億円(現在の約3倍)
- 9 外部資金獲得のためのURAによる分析・コンサルテーション体制の整備

07

大学改革、グローバル化の目標・取組(3)



国際戦略

- 留学生受入れ・海外派遣の増加**(平成32年度までに倍増(受入れ: 81.5%、派遣: 48%))【再掲】
大学間協定数の増加、英語による授業科目・コース(ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー含む)の増加、サマープログラムの増加、新たな私費外国人留学生特別入試の実施等により実現
- グローバル・ビレッジの形成**
(平成30年度当初までに学生寮を約1,100 1,400戸とし、充足状況を考慮しつつ、36年度当初までに更に600戸を整備)【再掲】
教職員を含め約2,600戸規模を整備(学生寮の25%を日本人学生に提供) / PFI方式等を生かした持続可能な計画により着実に実施
- 大阪大学における、カリフォルニア大学のオフィス(UC/UCEAP Osaka Office)の誘致**(平成26年12月開所)
- 国際ジョイントラボ(海外の教授クラスの研究者が活動する学内共同研究拠点)の大幅増加**(平成35年度までに現在の22を100へ)
今後国際的に認知されることが見込まれる異分野統合的な新たな研究領域を含め、研究力の向上と国際プレゼンスの発揮
- 海外4拠点の機能強化「点から面へ」「都市から地域へ」**

教育研究の戦略的な国際展開

世界大学ランキングにおいて国際的 Reputation の占める割合が大きい

教育・研究両面での国際的な人事交流の促進と、国際広報戦略に基づく国際広報活動(ブランディング)重視による国際的評価をさらなる向上。

教育の国際展開

- ★ 1. FrontierLab@OsakaU
- 2. MOOCsの展開
- ★ 3. グローバルアドミッションズオフィス(GAO)の設立
- 4. 「知の統合」に関する多彩な副専攻プログラム
- 5. 国際交流・学術交流プログラム:
英語による国際的水準の教育プログラムの強化

研究の国際展開

- 1. 未来知創造プログラム
- 2. 未来研究イニシアティブ支援
- 3. 国際共同研究促進プログラム
- 4. 外国人研究者リクルート:
スター研究者の大阪大学への誘致、外国人教員の積極的な雇用
- 5. 国際合同会議支援
- ★ 6. 国際ジョイントラボ
- 7. 国際シンポジウム支援
- 8. 日本語・日本社会文化学修拠点:
日本語・日本社会文化に係るインキュベーション

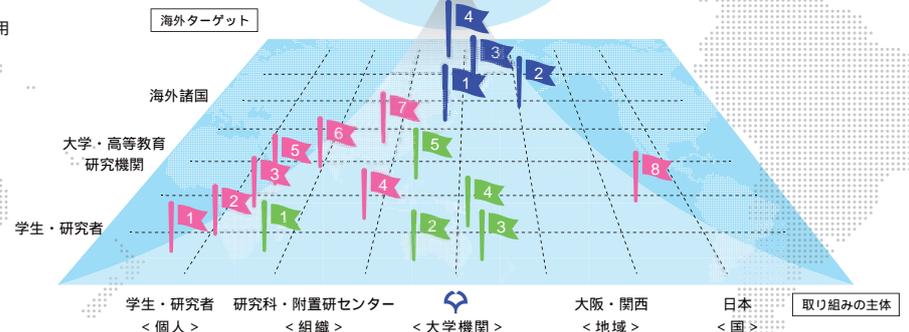
ブランディング、情報の発信

- 1. 世界適塾パンフレット: 外国語による情報発信機能強化
- ★ 2. 国際会議・コンソーシアムの積極的開催
・APRU年次総会主幹
・HeKKSaGOの日本代表
・AEARUに係るサマープログラム開催
- 3. 海外同窓会: 海外同窓会の活性化
- 4. Handai Global: 外国語による情報発信機能強化

国際ジョイントラボとは
22ラボ(15カ国) ▶ 100ラボ
オックスフォード大学、カリフォルニア工科大学などと設置。
今後さらなる拡大。

世界適塾
World Tekijuku since 1838
Reputation 向上

教育・研究・人材交流の活性化



国際的評価に関する教育・研究力

QS世界大学ランキングで順位を30位以内に

研究：ESI 分野別の被引用数ランキングで 30 位以内を 10 分野に

国際的に認められる新しい研究領域をインキュベート：
 領域候補：創薬基盤科学、認知脳システム学、光量子科学、多文化共生、新しい歴史観など

教育：THE の世界大学ランキングで教育環境を 30 位以内に

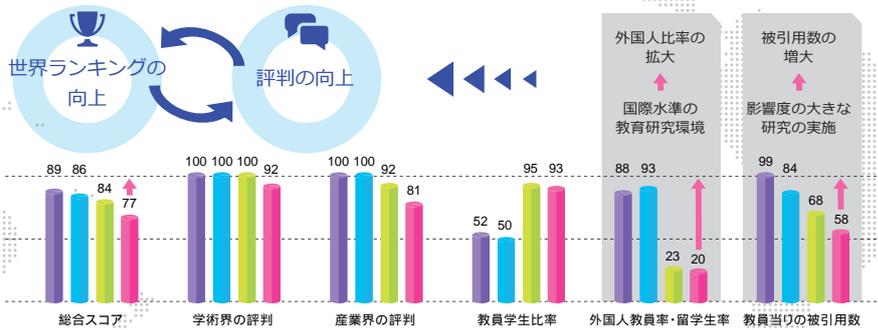
本構想における教育の国際標準化と改革により、国際通用性を備えた教育基盤の整備と教育の質保証を進め、国際的評価を獲得 外国人教員比率および留学生比率の設定目標達成

世界大学ランキング (カッコ内は国内大学順位)

	2012年	2013年
教育環境 (THE)	64 (5)	62 (4)
教員学生比率 (QS)	64 (6)	68 (6)

ESI 分野別被引用数ランキング (2013年) 100位以内の分野 (カッコ内は国内大学順位)

分野	順位	分野	順位
生物学・生化学	33 (3)	化学	16 (3)
免疫学	7 (1)	材料科学	20 (2)
微生物学	64 (2)	分子生物学・遺伝学	43 (3)
物理学	31 (4)	複合領域	44 (2)



QS世界大学ランキング2013 / UCバークレイ(25位) メルボルン大学(31位) 東京大学(32位) 大阪大学(55位) 10

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度以降
柔軟な学修体制の整備とイノベーション教育の展開	設置準備 ・新規学問分野もしくは最先端領域の研究分野の選定 ・新たなコンピテンシーの開発・体制整備		設置	世界適塾大学院(グローバル・シンセシス学府)							
教育実施体制の徹底した世界標準化	世界標準の質保証体制の整備 ・シラバスの共通フォーマット化 ・履修体系・科目内容の見える化 ・科目のナンバリングの実施 ・成績評価の質保証				PDCAサイクルに基づく質保証の定期的実施 ・戦略企画・IR機能を活かした根拠に基づく継続的な改善 ・定期的な組織モニタリングと利害関係者へのニーズ調査・データ蓄積 ・各組織へのレポート(フィードバック)と自己改善、社会への公表						
機能強化を伴う横断的組織体制の確立	横断的組織体制の確立		未来戦略機構の強化 ・インキュベーション機能をより発揮し、スクラップ&ビルドの基に、 ・学問の新機軸の形成(10年間で5分野)								
ブランディングや情報発信の積極展開	積極的な国際展開とレピュテーションの向上										
	海外とのネットワーク ・海外拠点の充実と活性化 ・同窓会の活用 ・海外大学との交流の活発化 ・ダブルディグリーの導入 ・カリフォルニア大学オフィスの誘致										
	国際的評価の向上 ・研究プロジェクトの企画 ・コンサルティング・ランキング対応										

「世界適塾」として教育・研究のグローバル・イノベーション実現
 世界大学ランキング(QS)TOP30入り

2031年世界TOP10入り